

令和6年1月23日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和6年1月23日(火曜日)

午後2時00分から午後3時00分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 大久保 真紀
委員 荒木 正 委員 廣川 佳予子

4 欠席者

なし

5 職務のため出席した者

教育部長	竹内 正浩	子ども未来部長	星野 麻美
教育部副参事(科学博物館長事務取扱)	小熊 博史	教育総務課長	桜井 秀行
教育施設課長	吉田 朗	学務課長	青木 佐土子
学校教育課長	佐山 靖和	学校教育課部活動地域移行担当課長	遠藤 雄一
学校教育課主幹兼管理指導主事	稲毛 真哉	学校教育課主幹兼管理指導主事	玉木 暢
学校教育課主幹兼管理指導主事	小畑 活	中央図書館長	梅沢 一茂
子ども・子育て課長	深澤 寿幸	子ども家庭センター所長	大久保 千春
保育課長補佐	永井 圭子	学校教育課企画推進係長兼指導主事	大畑 勝義
学校教育課学校支援係長兼指導主事	高橋 明大	教育センター教育研究室指導主事	青柳 拓二

6 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 江田 綾子 教育総務課庶務係長 今井 香

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会1月定例会を開会します。

◇日程第1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、大久保委員及び廣川委員を指名します。

◇日程第2 議案第1号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(金澤教育長) 日程第2 議案第1号長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定についてを議題といたします。それでは、定例会前に実施したヒアリングを踏まえ、各表彰候補者について、被表彰者として適しているか否かを決定したいと思います。

(金澤教育長) 条項第5号の中山春花さんについては、被表彰者として決定してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 条項第6号の石沢遥斗さんについては、被表彰者として決定してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 同じく条項第6号の坂詰真吾さんについては、被表彰者として決定してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 同じく条項第6号の金子晴恒さんについては、被表彰者として決定してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 同じく条項第6号の長谷川愛生さんについては、被表彰者として決定してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 同じく条項第6号の大森紫音さんについては、被表彰者として決定

してよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) それでは、全員「適」として決定したいと思います、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) それでは全員「適」と決定しました。

(金澤教育長) 以上をもちまして、議案の審議を終了いたします。

(金澤教育長) 続きまして協議報告事項に移ります。

(金澤教育長) 初めに、長岡市私立高等学校学費助成要綱の一部改正について 事務局の説明をお願いします。

(青木学務課長) 長岡市私立高等学校学費助成要綱の一部改正について説明します。本要綱の一部改正は、市長の補助執行として行い、長岡市として公表するため報告事項となります。この要綱は、私立高等学校に在籍している生徒の保護者に対し、就学上の経済的な負担を軽減するため、学費を助成しているものです。改正理由としては、長岡市文書規則の一部改正に伴い、押印を必要としている様式を押印不要とし、その他文言の修正を行うものです。改正内容としては、第1号様式から第4号様式、及び第6号様式について押印不要などの修正、追加をするものです。施行期日は、令和6年4月1日を予定しています。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、令和4年度児童生徒の問題行動等の現状について 事務局の説明をお願いします。

(佐山学校教育課長) 令和4年度児童生徒の問題行動等の現状について説明します。昨年7月の定例会で、児童生徒の問題行動等については長岡市の速報値を報告しましたが、この度、全国、県との比較がまとまりましたので、改めて報告します。

(高橋学校教育課学校支援係長兼指導主事) 令和4年度の長岡市のいじめ認知件数は、全

体で見ると昨年度の約2倍に増えています。各学校が長岡市の初期対応フロー図に基づいて、丁寧な対応を心がけていることが、いじめに対する感度を高めていると捉えています。1,000人あたりのいじめ認知件数を、全国、県と比較すると、長岡市は下回る結果です。今年度は、新たに市内全校の管理職、生活指導主任、生徒指導主事を対象にした「いじめ対応研修会」を開催し、事例に基づくグループワークや講演会を通して、教職員のいじめ対応力の強化を図りました。引き続き各学校では、目の前に困っている児童生徒がいる時には、子どもたちの心に寄り添い、丁寧に対応することでいじめを見逃さない取組や、早期発見、即時対応の取組を徹底していきたいと考えています。次に、「不登校」については、全国、県と同様に長岡市も増加傾向です。発生の割合を見ると、小学校は全国と同様、中学校では少し下回るという結果です。長岡市としても不登校対策は最重要課題と位置付けて取組を強化しています。今年度は、「相談ダイヤル支援」にワンストップで繋ぐ支援体制を整備したり、新設した「ほっとルーム」が児童生徒の新たな居場所となるなどの積極的な活用や、アウトリーチ支援で家族以外の人と会うことが出来るようになるなど、一定の成果が出ています。各学校においても、不登校の状態が複雑化、多様化する中で苦慮しながらも、子どもの状態に応じて粘り強く対応支援をしています。しかし、不登校数が増えている中で更なる支援体制が必要であると考え、昨年度末に市内全学校に協力いただき、不登校の状況調査を実施しました。その調査結果をもとに、長岡市の児童生徒の不登校状況を把握、分析をして今後の支援策を検討したいと考えています。最後に、「暴力行為」についてです。長岡市の小中学校の暴力行為は、全国、県と比較しても小中学校ともに発生率は非常に低い傾向であり、学校の荒れという状況は見られません。暴力行為には、相手が重傷を負うようなケースはなく、自分の思い通りにならないことで感情の制御ができなく、衝動的に相手を叩いたりした行為があげられています。引き続き各学校において、子どもの気持ちに寄り添いながら生徒指導を進め、暴力行為発生の防止をしていきたいと考えています。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(荒木委員) 「不登校」についての資料に、「令和5年11月には長岡市の不登校状況把握調査を実施し分析を行っている」とありますが、調査分析を実施して、特徴

的に見えてきたことを教えてください。

(高橋学校教育課学校支援係長兼指導主事) 国が毎年実施している調査は、30日以上欠席した不登校児童生徒に対する調査ですが、長岡市では、それらの児童生徒に加えて、不登校の兆候が見られる、また、配慮が必要な児童生徒も対象にしたところ、小中学校全体で960名が調査対象になりました。傾向としては、学年が上がるにつれて不登校数が増加していくこと、また、増加している状態のなかであっても小学校では3年生、4年生、中学校では1年生、2年生で増加の幅が大きくなっている傾向があります。今回の調査分析で深刻な状況としては、小学校4年生、中学校2年生で大幅に増加する傾向があることが分かりました。

(荒木委員) 不登校対策は、教育委員会や学校が出ていく要素が難しい問題だと感じます。不登校になっていく要因が、いじめなのか、家庭環境なのか、今回の調査で具体的な要因についてありますか。

(高橋学校教育課学校支援係長兼指導主事) 個々の児童生徒によって事情は変わりますが、学校生活に関する要因は、友人関係、学業不振が大きな要因であること、家庭生活では、親の子に対する関わり方の要因が大きいという調査結果が出ています。

(竹内教育部長) その件については、定例会の後に、委員の皆様にも長岡市の約960名を対象にした調査分析した状況を報告させていただきます。そして、市長との「総合教育会議」のテーマとしたいと考えています。後程、詳細については説明させていただきます。

(大久保委員) 暴力行為について2点確認します。数値が少ないのは良いことではありますが、県の平均に比べて、小中学校ともに1/20ですが、この数値をどのように考えているのか。次に、長岡市の取組で、衝動的な行動で暴力行為が増加している現状があることが記載されていますが、その背景を、どのように分析されているか教えてください。

(高橋学校教育課学校支援係長兼指導主事) 県と比べて、長岡市内は落ち着いた状態で学校生活を送っていることが数値の少ない大きな要因であると捉えています。また、児童生徒の衝動的行動については、発達的原因や、授業が分からず集中力に欠けてしまうケースが多いです。

(鷲尾委員) 我が社の話で恐縮ですが、高校中退後はアルバイトをしながら生活し

ていたという 30 代の方を面接して欲しいと依頼され、採用試験をしました。高校を卒業してから、自己高揚感や、社会で必要とされている、活躍した、感謝されたなどの経験が全く無いまま 30 歳を迎えていました。印象は良いのに、今までの経緯を考えると、消費税の計算が出来ないなど、義務教育の段階で、学力を付ける機会がもう少しあれば社会で活躍できたのではと、結局は学力不足であると感じました。不登校の要因は多岐にわたりますが、学力問題があるとするならば、義務教育の現場でどのように向き合えば良いのか、御意見を聴かせてください。

(稲毛学校教育課主幹兼管理指導主事) 小学校校長経験者としての考えをお伝えしたいと思います。やはり、小学校段階では学びの基礎となる力を身に付けて行くことで、個別支援、個別指導をしながら学力を身に付けて行くことが大切です。経験から、勉強が分からず学校に行けなくなった児童がいる学級などは、子どもの実態に応じてグループ分けをして、実態に合った指導をしていくことを、4年生の時にしっかり実施した経験があります。その後、学習面が改善されたことで学校に行きたくないとは言わなくなりました。やはり、学習は一つの大きな要因になると感じました。

(玉木学校教育課主幹兼管理指導主事) 現在、授業イノベーションに取り組んでいますが、私は中学校理科の教員ですが、例えば、電流の「オームの法則」の授業をする際に、電流の流れる仕組みや、電圧のかかり方などを理解した上で、小数の計算をします。中学校では、全員が分かっているという前提ではやらずに、分からない生徒のために教材を用意して教えていきます。分からない生徒の欠けている部分は何かを理解し、生徒たちに寄り添った授業を進めていくことが大切だと考えます。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) 学習は学校の授業が中心だという思いは今も持ち続けています。生徒指導や、いじめなど色々なことの繋がりは、授業の中でしっかりと子どもを育てられるかに掛かっていると思います。そういう気持ちで今も教育委員会に関わらせていただいています。授業を第一にイノベーションしていくということは、ある意味筋が通っていると思います。学校が理解し、先生方一人ひとりが実践し、形にしていくことを、力を入れてやっていくことが不登校対策にも繋がるかたちだと考えます。

(荒木委員) 私も、色々なところで授業作りを研究したり、県教育委員会で学力向

上の責任者として取り組んだりしてきました。授業が楽しくなかったら学校生活の大半が楽しくはなくなります。生徒指導を担当した際に、生徒指導に長けている先生が等しく「授業が分からなくなったら教室を出て行きたがる」と言います。そういう場合、休み時間に先生と一緒に話をして聞いたり、ヒントを与えてみたりすることで、少しでも出来た、分かったということがその子の中で経験値として組み込まれていき、授業や教室から逃避することはなくなると考えます。全ての基本は授業が楽しい、自分はやれば出来るという自分の可能性を、授業の中で身につけることが出来る学級であり、教育の在り方が改めて問われていると思います。人間は言葉として長期記憶に残っていきます。言葉を通して考えながら、思考の一つの基本として考えていきます。小学校では特に、言葉を大切にしたい授業を実践していくことで心穏やかになり、言葉を丁寧に使うことで論理的になります。今の授業を見て思うのは、基本が落ちていることがあります。まず、今日は一体何を問題にするのか授業を見てもわからないことが多い。今日この時間の中で、最も大事にしなければならない方式や、言葉や用語が何か、果たして記憶として残っているだろうか、と私はいつも見っていますが、半分くらいの授業が欠けていると感じています。長岡市の取組はとても良いので、そのような要素を加えることで更なる充実した授業を展開できると思います。

(金澤教育長) 他に御意見はありませんか。

(金澤教育長) 先日、小学校の指導主事と話をしていて、中学校では全員に授業を分からせようとは考えていないことを話したら驚いており、例えば、玉木管理指導主事の話にあった「オームの法則」のように、合成抵抗の求め方は、出来ない生徒がいる前提で授業をしている。小学校3年、4年生までは100%理解していないと社会に出て困るだろうと考え、小学校の先生は授業内容を子どもたち全員が理解できるように授業をしています。考え方の違いはありますが、その中でも、LDや障害があるなどして理解できない子どももいるため、もっと先生方が勉強をする必要があると考えます。一つの方法で理解できない子にも方法を変えて分かるように考えなくてはいけないというのが改善の一つです。分からない子も、出来ない子も、そこに一緒にいる意味のある授業をしようということが、現在、実施している授業イノベーションです。分からない子と、分かる子が話し合うとか、一緒に作り出す

授業にすることが求められているため、そういった意味でも、授業改革が求められています。後は、最低限社会に出て困らない知識の習得のためのやり方など、引き出しをもっと勉強する必要があると考えます。

(鷲尾委員) 教育委員会の皆さんにお願いしたいのは、子どもが減っていく中で、優秀な人は良い高校を出て、良い大学を出て世界に羽ばたく人もいます。長岡に残る子どもたちが長岡で働いて生活して生きていく、その層を大事にしていかないと本当に長岡は駄目になると思います。地元で商売をさせていただいていますが、先程の採用試験での彼との出会いで、最近は切に感じています。現場は課題が山積して大変だと思えますが、勉強の分からない子どもに少しでも勉強が出来て、生活でできる力を与えていただきたいと思えます。

(金澤教育長) 是非、これからの授業作りの視点の一つに、明確に据えてお願いします。

(荒木委員) これだけの数値が出ているということは、生徒指導的に、非常に安定している状況を示しています。学級の安定を表しており、それは授業が安定していることに繋がっているということが数字に出ていると評価しています。

(金澤教育長) 次に、令和5年度文部科学大臣優秀教職員表彰について 事務局の説明をお願いします。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) 令和5年度文部科学大臣優秀教職員表彰について報告します。今年度も、1月16日に3名の長岡市内の教職員が表彰されました。一人目は、千手小学校の藤塚教諭です。特別支援教育の分野で目覚ましい活躍をされています。原則50歳未満が表彰の対象ですが、藤塚教諭の成果を認めていただき表彰していただきました。二人目は、上組小学校の石垣教諭です。授業イノベーションで造形教育の分野で意欲的に取り組まれています。三人目は、大島中学校の竹田教諭です。美術の指導技術に優れ顕著な成果で表彰されています。長岡市の特色として、例年、栄養教諭が表彰されていましたが、今年度は全て教諭となりました。表彰の経緯としては、17名の推薦があり、県で6名が表彰され、その内、3名が文部科学大臣優秀教職員として表彰されました。今回は若手奨励賞や組織の表彰は該当がありませんでしたが、長岡の教職員の裾野の厚みを感じる表彰の

結果となっています。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(廣川委員) 余談ではありますが、個人的に名前を存じあげている先生が2名もいらして本当に嬉しいです。

(鷲尾委員) 長岡の先生のレベルの高さをご紹介ありましたが、県で表彰された方々の中で長岡の先生の比率が高いということですか。

(小畑学校教育課主幹兼管理指導主事) 長岡市の選出される比率は高いです。また、教諭の幅が広く、学校事務や栄養教諭からも表彰者が選ばれていることから、一部の教諭だけではなく、学校全体、長岡市全体で頑張ろうという雰囲気を感じていたけると嬉しいです。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、第2回新しい米百俵！長岡市「熱中！感動！夢づくり教育」推進会議報告について事務局の説明をお願いします。

(佐山学校教育課長) 第2回新しい米百俵！長岡市「熱中！感動！夢づくり教育」推進会議が12月18日に開催されました。1回目の会議での事業の周知方法についてや、体験活動の充実について、企業の参入についての御意見を受けて、2回目では、「熱中！感動！夢づくり教育」PR動画の中身を考えることをテーマに御意見をいただきました。

(大畑学校教育課企画推進係長兼指導主事) 周知方法について特化して会議を進めました。主な発言としては、「動画をとおして何を伝えたいか、何をねらっているのか大切にして欲しい。」また、「子ども、保護者、地域など対象によって動画の見せ方を変えていく必要がある。」、「子どものひと言感想などを入れると良い。」や、「給食を食べている時間に教室で流せる動画があると効果的ではないか。」との発言をいただきました。その他に、児童クラブなどで開催される出張講座などを取り入れてはどうかなどの意見がありました。さらに、企業の体験ができるものがあると、企業の宣伝ができるだけでなく、この体験をもとに、長岡の将来的な企業の人材確保につながるものではないかとの意見がありました。いただいた意見をもと

に、来年度に具体的な対応を示していきたいと考えています。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、令和5年度第2回長岡市栃尾美術館協議会報告について事務局の説明をお願いします。

(梅沢中央図書館長) 第2回長岡市栃尾美術館協議会報告です。12月11日に協議会委員8名と事務局4名で栃尾美術館で開催しました。議題は、令和5年度事業報告及び後期事業計画と、令和6年度事業計画についてです。主な意見として、令和5年度開催の中原淳一展と椿悦至展について、集客目標数は設定しているのか、どのように算定しているのか質問をいただきました。中原淳一展の目標6,000人に対し、実績は2,772人と約5割、椿悦至展は目標1,900人に対し実績567人と約3割でした。目標人数については、開催に係る経費も含めて考慮し算出しています。また来年度の展覧会については、開催することになった理由や作品の良さなどを、SNS等を通じて年度のはじめからPRを行ってはどうかと御意見をいただきました。令和6年度は、星野道夫さんの写真展、長岡市の松岡達英さんの原画展を予定していますので、広告媒体を利用してPRを実施したいと思います。次に、同規模の美術館同士で作品の貸借などを行ったかどうかという御意見については、現在、市内施設では貸借を行っていますが、市外の貸借については検討が必要であると考えています。また、今後、中学校の部活動が地域移行されるということで、地域の美術部が廃部になったり受け皿がない場合どうなるのかという質問があり、美術館では、可能な範囲で地域に協力できればと考えているとお答えしました。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(鷲尾委員) 質問者からは目標集客数の算定などの回答内容について、何か意見や質問などありましたか。

(梅沢中央図書館長) 集客の人数など目標集客数は決めていたのかなどの質問を受けて、結果をお答えするというやり取りのなかで、周知をして開催して欲しいなどの意見があり、広告媒体を利用して実施していくという回答をしています。

(鷲尾委員) つきいち☆アートの参加費が100円に設定されていることについて、

公共施設での催しとして、安価に経験して楽しさを知ってもらいたいという使命で実施していると思います。100 円にコスト意識はないため特別な算出理由はないと思います。そのことを考えると、展覧会に対して開催の経緯を考慮した基準で目標を設定することに意味があるのでしょうか。

(梅沢中央図書館長) 栃尾美術館では、予算の関係があるなかで観覧料とその他の経費の歳入歳出を計算し赤字にならないようにしていますが、目標設定のハードルが高いこともあります。

(鷲尾委員) 収支均衡を求められている中で、現実はかなり厳しい結果ですが、担当者としてはどのように受けとめていますか。

(梅沢中央図書館長) 必ずしも観光施設ではない中で、教育の面で子どもたちに参加してもらえそうな取組を心がけています。次回以降に、目標に達するために工夫をしていきたいと考えます。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御意見、御質疑なしと認めます。

(金澤教育長) これをもちまして、協議報告事項を終了します。

(金澤教育長) それでは次に、催し案内等について説明願います。

(梅沢中央図書館長) 「初心者向け読み聞かせ講座」と、「読み聞かせ講座ボランティア養成講座」を二日続けて中央図書館で開催します。初めて絵本の読み聞かせを行う方を対象に開催するものです。「読み聞かせボランティア養成講座」は、講師に江島祥子さんを迎えて開催します。「ふるさとのこどもたち展」は、栃尾地域の園児が一年間の活動を通して制作した作品を展示します。展示の最終日には、「オープンアトリエ／プラバンであそぼう」を開催します。

(小熊教育部副参事) 「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」を2月16日から3月10日まで、科学博物館の企画展示室で開催します。また、ネイチャートーク「日本を彩る野生のサクラ」を、まちなかキャンパスで、日本に自生するサクラをテーマに、サクラの専門家を招いて開催します。

(大久保子ども家庭センター長) 「お子さんの発達が気になる保護者の気軽な勉強

会」を2月17日に開催します。自身の発達障害のお子さんの養育経験を持つ児童精神科看護師の方を講師に迎え、具体的な質疑応答を交えた講義を行います。

(金澤教育長) 他に報告事項はありませんか。

(金澤教育長) これをもちまして本日の定例会は閉会します。ありがとうございました。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員